

⇔状況と対立する⇔



- ①私と状況が対立し分離している。
- ②状況は独立した対象となる。
- ③対象である状況を操作する として
や を行う。

「差し控え」は二種類ある

①状況と調和(受容)

操作する対象の不存在

「差し控え」という性質・状態を示す

動作や行為とは無関係

②状況と対立

操作する対象の存在

対象への「差し控え」という動作・行為

①と②は論理的に大きく異なる

【従来】

【1】差し控え＝不作為（制止された動作）

【2】中止＝（不）作為（実行動作）

この二種類だけと考えていた

【本論】

【3】受容した差し控え＝不作為にもならない
対象の不存在。状態である。行為・動作と無関係
が加わり**三種類**で判断しなければならない
不作為でも作為でもない差し控えがある以上

差し控えと中止は異なる

最期までつらくない生活はできる？

できます！

④ 緩和医療が進歩しました

- 1) すべて的人是緩和されます**
- 2) 生きる時間はそのまま継続**
- 3) つらくない・苦しくない
痛くない状況をつくります**
- 4) でも分かる医者が20%**

モデルA
30年前

Cure

Cureのあきらめ=死

Terminal care(延命治療をしない)
医療の中止を法制化→

モデルB
20年前

Cure

- ◎ 尊厳死の法制化
- ◎ 救急医療の中止
- ◎ 脳死の標準化

モデルC
10年前

Cure

モデルD

⑤ 「終末期医療の概念整理」 プロセスが重要であり 結果を求めることではない

- ① 信頼に基づく医師－患者関係（保険診療の大前提）
- ② 終末期の用語を取り違えず説明責任を果たす
- ③ ICF（国際生活機能分類）に基づく生き方の説明
- ④ 具体的な支援方法と行動を提示
- ⑤ 1）～4）の適切な施行
- ⑥ 結果として決定される（場合がある）
- ⑦ 決定されなくてもよい→現状を維持すること
- ⑧ 状況が変われば1）～4）を繰り返す